

令和6年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立木川小学校

令和7年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

全国学力・学習状況調査において、本校は大阪市・全国平均よりも下回る傾向が続いていたが、近年は上回る結果となり、一定の学力が身につくつつある。本年度は、算数科を研究教科とし、引き続き基礎基本を習得する学習活動を推進させると同時に、発展的応用力を身につける力を養う。また、全国体力・運動能力調査においては、敏捷性や持久力についての課題が毎年の傾向として見られる。また、何よりも自尊感情の醸成や、「あいさつ」「決まりを守る」などを始めとする社会性の育成、基本的生活習慣の向上が課題である。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

○年度末の校内調査（児童アンケート）における「学校の約束を守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える児童の割合を前年度以上にする。

年度末の校内調査（保護者アンケート）における「お子さんは、学校のきまりや社会のルールを守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える保護者の割合を前年度以上にする。

○年度末の校内調査（児童アンケート）における「自分のよいところを見つけることができましたか」と「友達のよいところを見つけることができましたか」の項目について、「当てはまる」と答える児童の割合をそれぞれ前年度以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○経年調査における標準化得点が、いずれの学年も大阪市平均を上回る教科を前年度以上にする。

○「体を動かすことが好き」と答える児童を増やす。(85%以上にする)

年度末の校内調査（児童アンケート）における「手洗いをしていますか」の項目において、「できた」と答える児童の割合を前年度以上にする。

○年度末の校内調査における「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目において、「できた」と答える児童を前年度より2%増やす。

【学びを支える教育環境の充実】

○1人1台学習者用端末を活用した持ち帰り学習を月2回以上実施する。

○年度末の校内調査（保護者アンケート）における「学校は、学習参観など教育活動を公開したり、木川だよりや学校ホームページなどで情報発信に努めたりしていると思いますか」の項目において、「はい」と答える保護者の割合を前年度より5%増やす。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 66.5%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 100%にする。
- 保護者アンケートにおける「学校は学習参観 や学校行事などの教育活動を公開 したり、学校だよりや学年だよりホームページなどで情報発信に努めたりしていると思いますか。」および「学校は、家庭・地域と連携していると思いますか。」に対して肯定的な回答の割合をともに 90%以上を保持する。

3 本年度の自己評価結果の総括

不登校児童の在籍比率は前年度より 0.48%減少し、前年度不登校児童の改善の割合も 34.5%増加することができた。個々の児童に寄り添い、保健室登校や別室指導等、学校と家庭とが連携を取り、児童へ働きかけてきた結果である。さらに本年度は S S R（スペシャルサポートルーム）がモデル設置された。「ひだまり教室」と名称を定め、学級教室に入りにくい児童数名が参加しており、児童によっては登校する日数が格段に増えている。今後も「学校が楽しい」と思える取組を、低学年から積み重ねていくことが必要である。

経年調査の結果より、昨年度より算数科の研究に取り組んでいるが、結果としてはまだ表れていない。算数科のみならず、様々な教科において児童が主体的に学ぶことができるよう、継続して研究に取り組む。

I C T の活用については、児童は端末の操作に慣れてきており、学習での活用もスムーズに行えるようになってきている。朝の「心の天気」の入力はもちろんのこと、各種アンケート調査においても全学年が端末を用いて回答ができるようになった。

教職員の休暇取得に関しては、協力体制が整っており、休暇を取得しやすい雰囲気であると教職員も感じている。

情報公開や、家庭地域との連携については、継続して取り組みを行っていく。

(様式2)

大阪市立 (木川小学校) 令和6年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。(R5年度79.3%) ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(R5年度4.30%) ○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(R5年度45.5%)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 児童が楽しく登校できるように、安全・安心な教育環境を充実させる。	B
指標 児童アンケートにおいて、「楽しく学校生活を送っている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%にする。	
取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 安全な学校生活の過ごし方を全校朝会や安全の日など様々な方法で児童に知らせる。	B
指標 児童アンケートにおいて、「学校の約束を守っていますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】 「いいところみつけ」する場を、各学級の実態に応じて「帰りの会」や「学級会」の時間に設けるとともに、異学年での「いいところみつけ」を行う。 生活目標に「自分や友だちのいいところをたくさん見つけよう」という月を設ける。	B
指標 児童アンケートにおいて、肯定的回答の児童の割合を「自分の良いところを見つけることができましたか」の項目においては70%以上、「友だちの良いところを見つけることができましたか」の項目においては85%以上にする。	
取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】 様々な体験活動を通して、人や事との出会いの場を多く設け、豊かな心を育む。	B
指標 遠足や社会見学、異学年交流等の体験活動を年間3回以上行う。 年に1回以上、芸術鑑賞を行う。	

<p>取組内容⑤【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>いろいろな国の友だちとふれあい、世界の国々の文化や言語を知ること、理解を深めよう。</p> <p>自分や自国を大切にする気持ちを育てることで、他国を大切にする態度を養う。</p> <p>外国にルーツのある子どもたちを尊重し、周囲に理解される場面を作り、自己肯定感を高める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年に 1 回「友だちの国・友だちのことを知ろう」週間を設け、様々な国の文化にふれられるようにする。</p> <p>低学年、中学年、高学年と国語科や総合科、生活科などの学習を通し、日本語指導センターに通級している児童との交流を図る。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。</p> <p>⇒令和 6 年度経年調査結果 <u>81.0%</u></p> <p>(3 年 : 88.5% 4 年 : 78.0% 5 年 : 84.5% 6 年 : 73.0%)</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>⇒令和 7 年 2 月末までの集計 <u>3.82%</u></p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>⇒令和 7 年 2 月末までの集計 <u>80.0%</u></p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>別紙参照</p>	

(様式 2)

大阪市立 (木川小学校) 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。(R5 年度 36.3%) ○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 ○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 66.5%以上にする。(R5 年度 66.5%)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 漢字学習を計画的に進め、漢字の定着を図る。	B
指標 1～4 年生は、3 学期に漢字の学年末テストを行う。 5・6 年生は漢字能力検定で合格率 78%を目指す。	
取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 算数科の指導法の研究を進める。家庭学習の充実を図る。	B
指標 全学年で年間 1 回、算数科で研究授業を行い、研究討議会で話し合われたことを記録・整理し、日々の授業に生かすようにする。 小学校学力経年調査における「算数の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 66%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】 委員会活動や体育週間で児童が体を動かすことの関心を高めたり、知識を深めたりできるように活動を工夫していく。	A
指標 体育週間を年間 2 回以上行う。年間を通じて、運動場での集団遊びを実践する。	
取組内容④【基本的な方向 5、健やかな体の育成】 正しい手洗いの仕方を知り、実践する習慣を身につける。 「早寝・早起きめあてカード」を活用し、同じくらいの時刻に寝て、起きる習慣を身につける。	B
指標 学期に 1 回生活点検週間を設け、児童の健康の意識を高める。 「早寝・早起き週間」を年に 1 回実施し、保護者の啓発を図る。	

<p>取組内容⑤【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <p>学校給食を中心に「食」への関心を高め、望ましい食習慣を身につけられるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>全校集会などで児童が食の関心を高めたり、知識を深めたりできるように年1回以上の発表を行ったり、掲示物を作成したりするなど委員会活動を工夫していく。</p> <p>各学級で給食を中心に、給食カレンダーや給食だよりなどを活用しながら食への関心を深める指導を継続して行う。</p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。</p> <p>⇒令和6年度経年調査結果 <u>34.85%</u></p> <p>(3年：41.0% 4年：28.8% 5年：34.5% 6年：35.1%)</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。</p> <p>⇒国語 令和5年度 3年：1.03 4年：0.96 5年：1.01</p> <p> 令和6年度 4年：1.07↑ 5年：1.03↑ 6年：0.97↓</p> <p>算数 令和5年度 3年：1.14 4年：0.90 5年：0.91</p> <p> 令和6年度 4年：1.05↓ 5年：0.92↑ 6年：0.92↑</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を66.5%以上にする。</p> <p>⇒令和6年度経年調査結果 <u>66.325%</u></p> <p>(3年：78.7% 4年：69.5% 5年：60.3% 6年：56.8%)</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>別紙参照</p>	

(様式 2)

大阪市立 (木川小学校) 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕(R5 年度 実績データなし) ○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合 100%にする。 (R5 年度 97.4%) ○保護者アンケートにおける「学校は学習参観 や学校行事などの教育活動を公開したり、学校だよりや学年だよりホームページなどで情報発信に努めたりしていると思いますか。」および「学校は、家庭・地域と連携していると思いますか。」に対して肯定的な回答の割合をともに 90%以上を保持する。 (R5 年度 95.4% 93.1%)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6、教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 1 人 1 台学習者用端末を含め、ICT 機器を積極的に活用した授業を行う。	A
指標 ICT を効果的に学習に活用し、情報活用能力 (ICT) チェックリストの 1 2 項目中、半数以上「できる」と答える児童の割合を 7 0 %以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 定時退勤や年休の取得を促す。	B
指標 ゆとりの日を週 1 回以上設定する。 学校閉庁日については、長期休業期間中に 3 日以上設定する。	
取組内容③【基本的な方向 9、家庭・地域等と連携・協議した教育の推進】 運動会や作品展などの主な学校行事を保護者や地域に公開するとともに、学習参観や学校公開のもち方を工夫する。 児童の頑張っている姿を学校だより・学年だより・学校ホームページなどを通して、家庭・地域に向けて情報発信することに努める。	A
指標 学期に 1 度、参観または行事の公開を行う。 年に 2 回学校公開日を設け、保護者や地域の方への紹介に努める。 学校だよりや学年だよりを月に 1 回以上発行するとともに、月に 1 回以上各学年が HP を更新する。	

取組内容④【基本的な方向 9、家庭・地域等と連携・協議した教育の推進】	A
全学年において、地域の方との体験活動等を通して人や事との出会いの場を多く設け、豊かな心を育む。	
指標	
全学年において、地域の方と共に活動する学習を計画する。 ゲストティーチャーを招いての出前授業を、全学年において年間 1 回以上行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕 ⇒令和 7 年 1 月末日までの集計 <u>68.6%</u>	
○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合 100%にする。 ⇒令和 7 年 2 月末までの集計 <u>82.9%</u> （未達成者も残り 2 日程度、3 月末までに取得予定）	
○保護者アンケートにおける「学校は学習参観 や学校行事などの教育活動を公開 したり、学校だよりや学年だよりホームページなどで情報発信に努めたりしていると思いますか。」および「学校は、家庭・地域と連携していると思いますか。」に対して肯定的な回答の割合をともに 90%以上を保持する。 ⇒「学校は学習参観 や学校行事などの教育活動を公開 したり、学校だよりや学年だよりホームページなどで情報発信に努めたりしていると思いますか。」 <u>97.4%</u> 「学校は、家庭・地域と連携していると思いますか。」 <u>96.0%</u>	
次年度への改善点	
別紙参照	